



中村俊定文庫

文庫 18

1024

3



卷之三

卷之三

卷之三

卷之三



卷之三

中村長嘯子文集

舉自集

第六

山家記

朝やうな

石枕記

金山記

さうな

わすれなと枕を

雲の山を

月のやう



後醍醐
山家記

第七

公方家内房の御并序
八月十日未云軌驚月夜ふてく

の序

妙善院よつろす
松平越中もよつろす
指系内西よつろす
那波道也よつろす

あつろす
あつろす

つろす
つろす

三作法眼よつろす

道春法下よつろす

佐門田のひよりよつろす

天龍寺寿法和尚のつとめ

あつろす

第八

蘇常中納言秀村の儀

妙法蓮華經

春日此の法のの儀別

永壽法下儀別

正意法指儀別

道音儀別

聖古宗隆儀別

九列のうちの記

うーやてあつまよふはげのうちの記

尊山ののしとを

書事のうちの記

穀山よまうておれろしとを

伊豫のうちの記

第九

後陽成院崩御といふはつとハ

父二位法下れおひはつとハ

同三十三面ののしとを

玄旨法下といふめろしとを

妙法蓮華といふろしとを

祖母の思ひはつとハ

ふなうしとを

うまれよめい

第十

うるわね

稲葉丹好忠といふちりこを

道玄書の手よりけりといふ

こを

林叔勝といふちりこを

夏れいこ

玄東のいふちりこを

こを

玉のいとを

見屋のい

ちとを

宇治のい

安尾

心戒

ちりこ

辞世

舉白集卷第六

山家記

期月

石指記

盆山記

さう衣

めすくと木とくさる

春の山を

月のまへ

後山

山家記

山家記



ひとりやうい火とくけけりて文
屋のあやすきういれやうとける
といひらん名よけまのあつと紙
見しういあやういしきれふなる
黒本りてとあるい見しとのあなる
りくしこのとろそなるううなる
ぬぬつたりこれ極極さうすす
庭よあまのひかれしきすきとく
るしきしきやあぬやけの八すん

るり吹く夕つて暮し麻のこゑ
あられは山田のいすすくまゆるを
ときく——良運は師——ととを
いてちめけんいけよいめいめい
いこちんとおめひちくすよあや
るるにちるぬ林のそらうららぬ
いふぬこのもあてきつて糸をき
いこちちするも園中^{ケイ}のちうとを
すちりちうちうちう祥光ととを
うのこをれり下りともいふいふ

て人いひちるすいふのうを文のれ
もあんとつてさ——い——うを
いふれすすよはとてあ——い
さあおちうち——い——ちう
ちう——い——ちうのうを——い
てあ——い——い——ちうをい
とちう——てまもせすちうちうい
ふい——い——ちうちう——い
りふらの文いふまき——まうちう
あ——い——ちうい——若のう

りてをなされても此は織りしと
まふてしとぬりしとちよきとせらる
といわれしとちよきとせらるの細も
本の葉よりぬれいしとく月とては
高きといしとくしとくしとく
ありしとぬれしとくしとくしとく
函路よりぬれしとくしとくしとく
てこれるしとくしとくしとくしとく
しとくしとくしとくしとくしとく
くしとくしとくしとくしとくしとく

けさうしうるもすきなりよと
 のうむ深きくサてじしういふ
 うもいふさな一かちうつは
 とらねのちのえといふあり
 折葉うちたしものりやう
 くとなり深きふちうりか
 うものゆき煙のせよさうひ
 まちもやそくすことたの
 うらうちなりとれひり
 とはちう小河のありふ

一の流ありけいさあもの
 ゆきふあふれはもあつーの山莊サンザウ
 よーるーとれる百首のささ
 れおひく上右の風神のささ
 うえさひきけさくーてささ
 うさーい福くるすさなれ
 朝夕のまらささー三十八人の和
 あひすうはいさあさあさ
 て像サウはけけさささ色
 とうけささあふれさ

けくすしは終のてちさしりの巻
 付うせておぬつるまきうあれハ末の
 世もつるいふぬーくそ救九叔よさ
 ふめ板一はよ四人つるりいれ分^カ伝^{セン}堂^{ドウ}を
 るーてるけーのうよものくこれと
 うけつるぬりきありハの巻よさく
 つくねもの侍^{タテ}必^{ヒツ}とれつ九月をう
 うんとこのめり人の又とよいせす歳
 よりりばうけ^{ロウ}樓^{ロウ}よのありて月と結
 事^{コト}なりはよあうさうい

おしづれを待よるゝすむ月くれ
とよみゝおひいてくゝるな
るゝすてせるよ月らとれな
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
れあゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ
のるゝゝゝゝ月のはとぬそ
ゝゝゝゝゝゝゝゝのねゝゝゝゝと目
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ
の園とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

て郡セウ中セイの凡とつて見てはとちり
くあり世をうけし諸シヨ葛カツ々サイ菜とく
コノサニ
て心とむるしくすあたまいとし
家もふれしときにあねの寵トホリり
ゆくりけしものときよくけい乃
氷きくるりころろと大地のかり
あそりしあやとやーあよささるる
しつひさはたと母しーていさこむ
るしつひとのむいと病をうりは
してあやふさうしーされなるまほ

いとふり添ひてもいぬるよ
さうさうしなれんといふ南の窓
よりわけてすゝいぬるよさうさう
つ王右軍の石すりのちいさな
まのねいろこいさうく真^{ニニサウ}筆
ちやせこれさても城より目と
りしつゝは紙をよめども終も
うまうしなれぬなりあはれ
しすもわに落のよにめいもいお
のむすちやねいさうさうあめし

まにあれといふる——まのさうえ
雲霧のすゝいぬるよはけとや
いふまめさう——まのさうの文
うすいぬるよちのさういぬる窓の
うちいぬるよまのさういぬる
まけん巨^{キョウ}塔のあはれいぬる人
まのさういぬるよさうさういぬる
まのさういぬるよ——まのさういぬる
まのさういぬるよさういぬる
まのさういぬるよさういぬる

くてもかゝることをやりすゝのあゝ
ととのすゝゝははるゝすききき
のいされゝゝまゝとせんゝとありゝ
姫子ゝにゝ師のふけゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝ我ゝゝゝゝゝゝゝゝ
結ゝ絶ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
孫の琴ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝありて魂ゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のむゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いつ松洞臺トウダイよのなれをうやみのま
り一村のすもはらりて大なる
ふえり長子ちよてむらぬりい
もつぬおもひなれとあれ幾世
のうとぬりつかりなぬる
ひのくの敷もいれぬ中よすむん
人ともぬあつまりぬるい川の
あふれぬよとぬらうらうもか
やうらふるういふえのうらう枝
あふれぬよいふちいふら

やうこのおろちありといふたき
くもいふちぬぬるうくへい
よとありけいもちいあ
もつさそぬるきよやうつ
へくちのい車のはい
いよいぬよとさるけい
よのれよかこぬるいぬい
いもぬぬるいのうひのい
いりもぬいよちうあちぬ
やうていふくもあす先せん

2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526

さもさくひち——むひわてはよふと
 つさいてさる入おのこをさうけり目
 もつ——いけさうりあはみゆさくはひ
 くつれふよいとくあすくちわく
 昔ちそれとちつあやさてこてり
 なふれとす——あははははは
 びんのきりすすこのくんとけさ
 じの月二つりあや——くち
 つうあさはつ——おのぬ——れれこ
 よといひ——めもおるぬち——あり

—さういふ田川の林なりふちま
そぞろす佐々木お清は山科の禪師
のこころのめいめいさういふれを
あるはこれ大おとさうれ—紀國
の千里濱のさういふおひいて
をふたりけるおのゝおもひ
そぞろさういふ時のしるし
るれとおる—はちまういて
ふれとおるおもひをあらわ
るはつはちまうす—とこの

ことにて

夜ふそいふ林はさういふ
林をさういふゆれいすち
はちまおさういふものひ
けなまゆれいすれの—の
さういふは林^{フセト}はさういふ
あや—さういふものさういふ
いと目とほいさういふあやち
義^{ミタ}出^{ムシ}なりなりさういふ
いとさういふ—さういふ

うらぐらんいつとゆーつーとく
し三史の終のつよふたてつとく
しーるてんよまちゃんいさつとく
くうらおふれうーくふたふい
さのもてあふいもさふとく
もありらんしーと光原氏の次子の
浦よあつとさふいーくちの頭中將
とすとすてうりもさふいもさふ
さふいけんうらうーいーあふれ
うーとさふいもさふいもさふい

うさふとさふいもさふいもさふい
うさふとさふいもさふいもさふい
さふいおふいもさふいもさふい
うらあふいもさふいもさふい
ちういもさふいもさふいもさふい
うさふとさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい
さふいもさふいもさふいもさふい

おーまれ

くされ庵はあれぞー東のあ
いはれたりの業なりなり

けう家

ふく山飛ツミはあすすもこちく
いふやいとつとまなまを
しられ常と右法はあす隣ナリ
あーくそ美やかーこそ
こひーられさるーは興のま

子とりとすすもくもく
くまねこの若の葉もこの
岩根のこもはかーいあし
もくろふたーられぬ
おゆも竹はあすのぬいさ
てのそとけぬくちあーさや
くその基林とむてう谷の戸は
すこめけじー門はー入り道
もあさすてーりりあふさるねを
さうくするねとかく池の水

お〜こく信長^{ノブナガ}とつ〜まへ
ま〜し此^{アノ}明智^{チカサキ}のう〜し〜ん
い〜んお〜めれおぬけあふ〜ら
つ〜てと〜り〜し〜るひ〜て〜ら
は〜は受もの〜く〜す〜すいてや
はつれて〜るあ〜ん歌〜り〜んも
の〜と〜い〜り〜と〜る〜し〜れつ〜も
の〜と〜雲のす〜の〜と〜るひ〜を〜い
〜のほりお〜んといふ〜と〜こ
あれ〜や〜の軍と〜や〜れて〜ん

はらが〜家君のあ〜とし〜いあま
の〜さ〜ひ〜し〜こ〜し〜は〜あ〜ら
ま〜りか〜い〜け〜て紫雲とあ〜し〜て
の〜れ〜し〜う〜り〜の〜と〜は〜あ〜い〜し〜
け〜ひ〜の〜し〜し〜も〜日〜は〜な〜ら〜ぬ〜れ〜い
天下はあ〜あ〜る〜さ〜り〜は〜各〜に〜も〜し〜
つ〜し〜ら〜る〜お〜け〜し〜ら〜る〜も〜し〜ま〜
ま〜い〜し〜ち〜ほ〜し〜あ〜れ〜は〜神〜と〜そ〜ま〜ら
ん〜く〜る〜る〜し〜ら〜る〜も〜し〜は〜ら
く〜し〜あ〜ら〜る〜つ〜て〜さ〜る〜儀^{イデ}式^{シキ}と〜あ〜や〜

[illegible]

うれしきものありて世とあらうしやう漢
の言^{カウ}にせんさうの剣^{ケン}となふさよせし句
ひよなりて一匹へし大風おこりてな
むぬるまもろく東へえそり女^メも
ゆるす東^{ヒガシ}を見つるものともいひせ
この女^メも一^{ヒト}の物もともいふとさるす
とともいふとさるしあふ坂^{イサカ}の園^ニるく
戸^{カド}と忘る西^ニの年^{トシ}人の蔭^{サツミ}テる沖
の少^コ老^{ロウ}を女のまどるの海も波^{ナミ}の夢
おさるなりてさるしとさるの玉^{タマ}氣^キ

七 ナカ
足 タラシ
姫 ヒメ

よるりやよるり

ずてぬつぷりこふいとかん

高麗王

とくさうしんせき

軍師仗よけの浪路をいふ。

うししし
さお
る
字
の
あ
ん

中納言とす

御婿の敏ササよそのまけつた

子下ハニシトクに徒のひうのちあによ

玉の夢いさよ

[illegible]

てむし西もろゆるなり

とふりてあたまをぬぐ

すゝちふふふふふふふふふ

あつたものさうさう

ト三
イ
エ

ふものえろくのか細き利家傳

第中弼之秀家侍之宰相中侍從

てあつた。それ

7. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846.

うすいそおしよとね

This image shows a vertical strip of a manuscript page, likely a flyleaf or endpaper. The paper is a light beige or cream color, showing signs of age and wear. A faint, stylized blue or grey decorative element, possibly a small floral or foliate motif, is visible near the top center. The strip is bordered by dark brown material on the left and right sides, which appears to be the binding or the edges of the book.

えもいぬ^{ニシキ}渾の———
まづてけとやうなる^{スケレ}篇たるを
うんま———^ヒまの^{トラウ}もれ^ト対面する
うせ^ヒ終る^ヒい^ヒ不^ヒ比^ヒ号^ヒの^ヒ例^ヒとを
う———^ヒち^ヒ居^ヒる^ヒい^ヒ———^ヒと^ヒう^ヒる^ヒさ^ヒは
母あり^ヒ西^ヒ京^ヒの^ヒゆ^ヒち^ヒう^ヒり^ヒて^ヒ知^ヒす
うそ^ヒま^ヒう^ヒる^ヒもの^ヒた^ヒち^ヒよ^ヒう^ヒす^ヒる^ヒん
う^ヒも^ヒさ^ヒう^ヒう^ヒこ^ヒさ^ヒい^ヒて^ヒさ^ヒん^ヒだ
東^ヒいう^ヒま^ヒの^ヒも^ヒお^ヒあ^ヒや^ヒ———^ヒさ^ヒい^ヒ常^ヒ
なれ^ヒと^ヒい^ヒれ^ヒ色^ヒ———^ヒな^ヒら^ヒう^ヒあ^ヒ———^ヒあ

さう^ヒ目^ヒも^ヒと^ヒは^ヒす^ヒ鵲^ヒ乃^ヒも^ヒれ^ヒす
こ^ヒり^ヒて^ヒこ^ヒれ^ヒう^ヒる^ヒこ^ヒれ^ヒを^ヒも
つ^ヒま^ヒあ^ヒま^ヒう^ヒり^ヒな^ヒく^ヒせ^ヒと^ヒの^ヒま
の^ヒじ^ヒつ^ヒひ^ヒと^ヒる^ヒ———^ヒさ^ヒん^ヒと^ヒお^ヒも
こ^ヒろ^ヒと^ヒあ^ヒう^ヒる^ヒさ^ヒう^ヒり^ヒと^ヒう^ヒり
な^ヒま^ヒれ^ヒと^ヒい^ヒつ^ヒけ^ヒん^ヒも^ヒこ^ヒも^ヒい^ヒる
ま^ヒい^ヒふ^ヒや^ヒう^ヒの^ヒゆ^ヒい^ヒ———^ヒの^ヒ代^ヒ
も^ヒあ^ヒり^ヒや^ヒち^ヒ———^ヒと^ヒ先^ヒ難^ヒ波^ヒの^ヒこ^ヒや^ヒこ
と^ヒり^ヒよ^ヒと^ヒい^ヒて^ヒん^ヒ———^ヒさ^ヒう^ヒい^ヒす^ヒ雲^ヒ
よ^ヒと^ヒい^ヒま^ヒの^ヒ梵^ヒ免^ヒな^ヒ———^ヒ様^ヒさ^ヒむ^ヒ足^ヒ

とらねたうら——琉^ル璃^リの^カ房^ラ中
くあま——米のちれいさとのて
軍とつひ——あやせれいふをえん
ちとせ——子^ミ里^リもつるは^ハ花^ハとのとん
氏の——も——さ——く——む——く——と
ゆ^{オホ}の^ミす——^ミね^ミい^ミと^ミう^ミと^ミす^ミ大^ミ政^ミ取^ミ
と——と——あ——く——は——と——け——の
ら——ら——い——ぬ——く——れ——あ——さ——さ
ら——い——く——く——米^ミく——く——目^ミと^ミな
——と——りの^ミも——さ——あ^ミる^ミさ^ミ月^ミ

のいり出の——と——の——
も——さ——い——く——や^サの^サ政^サ取^サと——つ——さ
く——と——つ——^サ糟^サ糠^サの^サい^サま^サと——^サき^サり
く——^サあ^サも^サぬ^サも^サあ^サれ^サ——^サけ
う——^サあ^サち^サけ^サ——^サい^サち^サら^サ露^サお^サい^サせ^サり
さ——^サつ^サら^サる^サと^サ——^サち^サい^サあ^サさ^サお^サい^サや
け——^サあ^サの^サく^サと^サき^サく^サの^サと^サう^サす
——^サあ^サれ^サ——^サい^サち^サく^サと^サあ^サつ^サく
——^サい^サち^サら^サる^サあ^サ——^サき^サり
文^ミと^ミの^ミ大^ミ女^ミ——^ミも^ミう^ミく^ミう^ミく^ミも^ミい^ミち^ミの^ミ

うささくひろく——常盤お清よ
一條院の石代のもの名中女御更衣
ひしのありさゆりうささくれ乃
お潤なすてい——まうさや
よとく——これ——お堂屋の
はねちとさういひれとそれ
しものすもあすいまれ世の光
てささと東門の——をさし
ふいりくちてけはおもても赤澤
うんとうりあさるや——この

サセ——お——とま秋の夕よ
ふ——おひ——あり——つらさる
お————せ——とまりけんは
し——月院もおもておひすくさ時
なれやい——くめうすちやう
くれ竹のう——このおお堂のうやこの
あに聚^{ジュ}子^シをゆりてい——さの
る——い——さすゆ——な——
あ——い——北中——さ——
い——さ——さうあ——れ——の

ぬすこてはなうら

いとよみの橋をうけいで我園ワカよ
うき事うけりる力のまればまよふ
とおいてちうちす人やすれじや
悲いふふはいと母ありて業平の朝
臣廿とめすてふけあへ海の
かとりもておりひやう色よめつ
うらのうらなうさ予もや
是故いともやうん素村は原
うよそゆりうなともあれと

梅の色よらうらなうらなう
とのりてふいふてまひらうら
とつー花さねらんうらな
てま帰ふもやせよおのうらな
とわらうさあさうらな
ーもううらなうらなうらな
郭クハク臺ダイ駝ダうらなうらなうらな
とてな梅うらなうらなうらな
とともうらなうらなうらな
なうらなうらなうらなうらな

とく—Pとれおゆつるまは城うかくと
ひとすたは還て^{カヘツ}世とともうまのまり
これとあしむつてあつておはなせ
かれハ^{ニヤウ}高のつけるまのあつて
阿^ア衛^{カウ}又とゆりてくるち楚^ソの公子
い—時^{ホクムチ}も僕^{ホクムチ}ととりて罵^カう
まは是すのあつてなりふさの
あつてくるあつてせしといふ
は同—る—ま本のいふさ
うらとせつこれとはつて君臣の義

あり深^{レニ}遠^クり実^ニおの華と歎^ヒけ^テ明^ミる孤^コ
ねとせうすさ^ニもよ^ニあ^ニあ^ニるもの
ら^ニとい^ハま^ニと^ニう^ニて^ニこ^ニよ^ニこ^ニの^ニ
び^ニし^ニと^ニく^ニも^ニす^ニて^ニは^ニめ^ニす^ニめ^ニる^ニの^ニと
う^ニあ^ニる^ニを^ニり^ニい^ニは^ニせん^ニと^ニも^ニの^ニあ^ニる^ニ
は^ニう^ニり^ニま^ニう^ニり^ニて^ニよ^ニの^ニめ^ニす^ニめ^ニる^ニも^ニれ^ニは^ニ
れ^ニう^ニや^ニと^ニい^ニは^ニう^ニり^ニひ^ニて^ニけ^ニや^ニと^ニい^ニ
も^ニを^ニと^ニけ^ニよ^ニを^ニつ^ニけ^ニて^ニ小^ニな^ニり^ニは^ニなり^ニ
つ^ニこ^ニの^ニ長^ニい^ニふ^ニる^ニを^ニり^ニい^ニひ^ニて^ニあ^ニせ^ニも^ニ忠^ニ
し^ニは^ニも^ニと^ニす^ニり^ニつ^ニて^ニい^ニく^ニ天^ニ地^ニ萬^ニ物^ニ即^ニ

一機^キ自家地家即一室^{シツ}ものにかゝる
しるるゆへは聖人にいふごとく
はゆいて死するんあり必しも
くより君のこゝろはあやうく
といふ時は病はうちあがりくさして
うろたへて死するやあらん
さけやそけんおもは極はく
つうくはふかしのめなす
めふもいふはふかしのめな
しのかうもいふは

とひも病はくさうしめ
死のあはれは

春のふゆ

あふこの春はくさうしめ
はくちめは病はくさうしめ
あふこの春はくさうしめ
はくちめは病はくさうしめ
はくちめは病はくさうしめ
はくちめは病はくさうしめ
はくちめは病はくさうしめ

とちやよふとタしといふなりな
らめてたのぢぬいふ一きさふさう
もあつらんやふの十日あまりある
のころあひさすさぬさうなりて
やいさふ月のころもあるさへそ
ぢもいてくさかりぬねの下まゝと
いふんもさういふところにある
ぢれともなつとおゆるさすぢは
あつさり申通そのふこゝに
ゆゑハりるぢぢぢぢぢぢ

院とくやいふめふにいふあめの河のふ
よなれさくうはるじあやけふ
あし一のふにむくくもあふ
いさやじとれさくうはるじあ
ものきせさくうはるじあ
うりとのきせさくうはるじあ
しとれさくうはるじあ
さくうのきせさくうはるじあ
とれさくうはるじあ
よなれさくうはるじあ

ねえいこうたーんあー

しーまのくしーもちいる梅花
りまのちりねー
ちーいっつちやー
なまーちー
こーいーかーいーはすめる例^{エニ}明^{メイ}る^サ像^{ゾウ}
と子^ス昂^{カウ}る^{カウ}ちやー
なりけちやー
とちやー
しきちすくろー

しーまのくしーもちいる梅花
りまのちりねー
ちーいっつちやー
なまーちー
こーいーかーいーはすめる例^{エニ}明^{メイ}る^サ像^{ゾウ}
と子^ス昂^{カウ}る^{カウ}ちやー
なりけちやー
とちやー
しきちすくろー

ありくさるもゆきちりけしにふい
悔なきくしくもちてあやうあるん
うゝむのくさるゝあやうゝあやう
つくのくさるゝあやうゝあやうゝ
よまゝてあひけんきゐるようあやう
石のくさるゝあやうゝあやうゝ
いつちいよけんきゐるゝあやう
もたゝゝあやうゝあやうゝ
なりなり道のくさるゝあやう
——くさるゝあやうゝあやう

とくしきいりてかゝるにあらす
いとくあふもゆるうらと世に月
もさるやうなほいにふひをたす
よさるれともとりより言をかこり
かさく——あるあめい——とれ
くれうふと家路さるすんば
ものありしを思はくじふあは
さとくせいのちふつとそにはあり
くとぬたえの——まればなうくれけん
くもりもこのもと——のきくうた

くつさーさーさーさーさーさーさーさーさーさー
さーさーさーさーさーさーさーさーさーさー
ひーさー

月の美人

おもひてのたまさきいそ月と花との
うみおもこも成なん枝のまじと
よつゆさくらまじいとりうちなるめ
つねさあけり大ふれあかりさ
るぬ水のさくらちて月のうつりさ
る

なむれいあやいひさあや
わささのきや月のうやい
まさいさの世の枝とおも
うぬさる月よるさー

後瀬山

い里すも始しころやさとの奥^コの推^ニ
いろひとぢれてささふいなるを
あすい考くもよめかんとては
本のちれねちさりあかもいうる家
よりあもれぢれもいろふつ升
さる

のち漸ふのちすむやまーわも
ぢとあもれれてさすねる

山家記

小塩山の林^{ラシ}にあり橘持寺とけ
る道^{ミチ}風^{フウ}の額^{ガク}あさやうり方丈の影は
あつうとあるといつてあつた木の
さくありてちねる枝のさすま
まとちすれぬころもむしお
えてなまけありしは^チ忠^ウ海^{カイ}
やつれとて^{ケシ}延^{エン}院^{イン}とさこねる
大とこれすりなりしありは^チ猪^イ地^チ
ひさしうはあやしは^チ梅^{ウメ}あり根
は^チま^マさるわれてうらふい半もり

ほ——の社^{ニヤ}標^{シキ}はにるものありら
の——これ^ヲ斧^ノもれていそつ
うくせひるりんいさ——ねは
ありぬものつ——ものいれ命あるを
されさのその本の木ともしも
もえ——すううてあ——い
もやれとすすれあり——このじ
けとくとれる箱ありらういれを
おのん——とすま——を
しま——すめ——ういれ——

屋よ——はく——もの——りせ
いとりこちてやぬありらに二葉の
店のも——はと——けら時氏神とて
も——て——は——業平郵長
うひて人たれぬい——の——と神代
事——すめらん其日の文もい——ち
うさありうは年つ——やん
や——の子——いそ——ん
やよ——機——うひ——てやそ
名——す——い——う——

に——るりそのくろいふは——りて
と——のものもよき——は——の
ひ——んけこの先——の——
あれとさ——るす新古今の——
ゆひり、あのの地まの——
を歌もい——て——秀逸とわつ
一文字とい——も惜くぬすこおす
うすけ居の死罪————て回
時の業とや京極黄門の書とん——
筆の——るるんせむある——こ

——とじ——世の人の——に——り
いて上々の名ありあひる可いあや
修り——るり寢の海とて——を
の——りいつ言——は——をてす
——つ——のつ——は
あちなり古烟タのそいの言は——る
の友——夢の下はタ書——ん
——ち——の——あ
——は——は——の——る
——り——い——

ようつす市は綿をぬす蟬のつゝ
さとののむものよるゝさゝいさゝ
まゝらとたたきかありて人と
おとろくさんくすくゝつゝはユキを
費やすとぢれ月雅集の中はを
てれて本す名々こゝ月のよれ風は
おとろく蟬のひとゝあるのよるを
系糸とくゝいされてゝゝのい
ふゆせりすゝいとあゝぬゝゝそ
れより氷上と見ぬれ氷を清く取

よとひてゝ石の若の衣はゝゝゝめ
ゝゝゝと玄實と名つゝ後都のやゝ
いゝゝ

とら玉はあま清くゝゝゝ
ゝやゝめゝちゝすゝぬゝゝゝ
ゝゝゝはゝとあゝぬゝゝゝのすゝ
ゆゝはゝゝゝゝゝゝゝとぬゝ
すゝれゝゝゝゝゝゝのちゝゝゝ
ひゝあゝゝゝゝゝあゝゝゝのゝ
ゝゝお入てゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふは是のさゆへすーもあるのこ推の
ふてとおーさ岩祢の君のみなりー
くはさうれふ下段よとるりやすと
ともつくなん本とさすきす
てあーもそろさむくすさる
ふさえうーらの毛を立あくるなと
ーさいふわーりてくさくさのものさ
りてさす前よりあるすさつ
ー岩ひしめさく家よりればち
時すくとさくさくさ道はあま

いてつひりもいさうしーとあれと
 してそいふところよーとあれとそや
 まうひううとおーあれて雲いなるの橋ロウ
 といとすい音ハハ重の舞ニカキとつる雪乃ニジ
 けーとそよらーとつとせぬ鳥
 ともいふあすうつとさうけーとさの
 君ひねもつとさうとさあれておひ
 もうけぬとさひけむんもさうとさあさ
 ちや鴨カモの長明トヤミのあふは似れもあ
 おりううとさうとさうとさうとさうと

あふれし一八十年をうゝぬ老の祢
えのうらもまゝとられすくしーれ
を幾夜とわく身とそとそとうち
うーてとやあけくうと玉のきみ
くもふいせんといひくもおされれ
寢る一月のまゝはぬき山^{ヨハネ}の端ち
くのねるもなと方の齡^キなるすく
くすそよとのれも黄^{イキ}なる泉^{イキ}の人
なれそなりやうひよさけきし
よくあふれとおもひさしんそもこ

のふい東山くーの山陰に松の能^{トホリ}と
めりふい大系野のすそこの田井は根^{チセリ}芥
とつむすこゝろむしーや愛いまや
ついでやゆあひしーやうけあす^{サウ}庄
月^{シラ}はあひて胡蝶^{コテラ}ととこまはしーとや
まけぬ



